



会 長 道尻 誠助 青少年奉仕 正部家光彦  
副 会 長 小井田和哉 幹 事 紺野 広  
クラブ奉仕 会 計 峯 正一  
会長エレクト 小井田和哉 会場監督 村上 壽治  
職業奉仕 石橋 信雄 直前会長 佐々木泰宏  
社会奉仕 川村 幸雄 副 幹 事 深澤 隆  
国際奉仕 築館 智大 会計補佐 渡辺 孝

例会日 毎週水曜日 12:30 例会場 八戸グランドホテル  
事務所 八戸市番町14 八戸グランドホテル内  
電話 (43) 0608 FAX (43) 0661  
e-mail rc8@vc.hi-net.ne.jp  
http://hachinohe-rotary.org/  
会報・広報委員長 広瀬 知明 同副委員長 福井 哲郎  
同 委 員 奈良 全洋

国際ロータリーのテーマ — 2020~21 — 八戸ロータリークラブのテーマ

ロータリーは機会の扉を開く

来週も会おう!!

国際ロータリー会長 ホルガー・クナーク

八戸ロータリークラブ会長 道尻 誠助

4 月 は 母 子 の 健 康 月 間 で す

第 3 1 8 4 回 例 会 2 0 2 1 . 4 . 1 4

## 会 長 要 件 道尻 誠助 会長



日曜日に根城の広場に桜の花を見に行ってきました。一部の桜は咲き始めていて、連れて行った孫が花を見て、「あ〜」と口を開けていました。ついでに桜の本数を数えたら155本ありました。私は三戸に住んでいますが、三戸であれば城山公園の桜はソメイヨシノがメインで、八重桜、八重枝垂しだれがありますが、根城は全部が枝垂桜でびっくりしました。案内板を見たら、根城南部の初代が甲斐の国甲府の身延山の久遠寺を創建されましたが、そこにある枝垂桜の枝を分けてもらって植え付けたという流れがあるそうです。久遠寺には樹齢400年の桜があるそうで、枝分かれしながら全国に広がっていることを知りました。マスタースズで優勝した松山英樹さんの話をしようかと思いましたが、私はまったくゴルフができない。ゴルフが分からないけれど、テレビでプレーを見て最初に感じたのは「マスタースズに出て10回目なんだ、すごいな」。始まったら「頑張ってるな」、その後「すごい

な」「もしかしたら」という感じになって、最後は「いけるんじゃないか」「いったな」という心の動きがありました。松山選手のプレーを見て、心を動かされた方が多かったと思います。一生懸命頑張ることの尊さを29歳の若い青年に見せてもらって本当に感謝しています。

## 幹 事 報 告 紺野 広 幹事

○コロナ関連の情報提供です。現在市民病院と日赤に8名ずつ計16名入院しています。宿泊療養施設での入所は18名。クラスターの発生に伴い療養する患者の数が増えています。中には人工呼吸器を着けている方もおり、なかなか離脱できないようです。インフルエンザとは少しだけ様子が違いますので、引き続きご注意ください。

## 委 員 会 報 告

親睦・会場委員会 今 彰夫委員  
○ニコニコボックスの報告  
・奥様誕生祝 種市良意・野村一雄さん

- ・結婚記念日 高谷勝義・夏堀礼二  
山村和芳さん
- 広瀬知明さん 誕生日の4月11日は現地時間で松山選手がマスターズで優勝した日になりました。一生忘れられません。
- 種市良意さん あれから40年！
- 高谷勝義さん あと数年で金婚になります。
- 夏堀礼二さん 34年間ありがとうございます。
- 道尻誠助・鶴飼寿栄 } 福島さんの卓話、  
田部久貴・夏川戸齊さん } 楽しみです。
- 小井田和哉・赤澤栄治 } ニコニコデー  
熊谷清一・中村稔彦さん }

デーリー東北新聞社 広瀬 知明さん  
3月31日付で「続きたおうう人物伝」を刊行しました。北奥羽地方の近現代の歴史をつくった132人を紹介しています。八戸ロータリークラブの中にも関係のある方々もたくさんいらっしゃいます。どういう方々がこの地域を形づくったかがよく分かると思いますので、特に県外から来られた会員の皆さんにぜひ読んでいただき、営業トークに使っていただければと思います。

深澤 隆副幹事  
本日もBテーブルは全員出席です。



「まき網漁業にかけた人生一路の夢」

講師 福島 哲男さん  
(太陽石油代表取締役)



本日はこのような貴重な時間を頂戴して改めて厚く御礼申し上げます。このスライドは今から40数年前にとった船舶の運転免許証です。いろいろな種類があり、これは小型船舶の免許で20歳未満の船は何でも運転できます。このスライドは船員手帳で、手帳がなければ漁船であろうが、貨物船であろうが、乗ることができません。親父が昭和25年春に福島商店漁業部を創立し、そのころからいづれ

まき網漁業をやりたいと思っていたようです。そこで今日は「人生一路」の歌詞をご披露し、講演の後にDVDを見ていただきたいと思っています。これは美空ひばりさんが昭和45年にレコーディングした歌です。

まき網漁業を始める前に底引き網漁業の船を昭和25年からやりました。1隻だけで操業するので規模が小さいわけです。親父が考えていたまき網漁業は5～6隻くらいの1船団セットで、人も50～60人の規模でやらなければできない。底引き網とは全く経営内容が違い、夢だけを追いかけていました。まき網は漁業権の許可がなければ商売はできません。それを取得するために青森県まき網漁業協同組合に漁業権を買い求めたのが昭和29年。その後、それを温めながら昭和41年に株式会社福島漁業を立ち上げ、同時にまき網船を建造しました。そのころは会社の経営内容も良かったのでしょうか。沖合底引き網船を5隻、北洋大型底引き網船2隻を所有していました。私は大学を卒業し父親の手伝いを始めたばかりでした。

昭和40年10月に結婚式を挙げ、和歌山の南紀白浜に新婚旅行に出掛けました。旅行が終わり、明日には八戸に帰ると自宅の親父に電話したところ、父から「お前は帰らなくてもいい。まき網漁業を勉強するために話をつけてあるから、九州に行け」と言われました。新婚旅行の延長のような形で九州に行き、佐賀県唐津にあった天生水産という会社を訪問しました。なにぶんにも未知の事業分野なので、いろいろと話を聞きました。その当時の九州地区のまき網船団の構成は網船1隻、探索船1隻、運搬船3隻で50～60人の乗組員で構成されていました。漁場は東海公海、シナ海、遠くは台湾付近まで出漁していました。1カ月のうち満月を中心に1週間は休漁し、それぞれの母港に帰るという操業体制で、これは今も同じです。

これに対し、北部太平洋海域での船団構成は網船2隻、探索船2隻、運搬船2隻の合計6隻、人数は60～65人。1～3月に近海でイワシ、サバの操業をやり、4月は船の整備、

その後は9月まで太平洋沖合海域、八丈島近海から遠くは日付変更線近くまでカツオや本マグロを追いかける体制が続きます。それから年内にかけて再び日本近海の漁場で網を取り換えてサバやイワシの漁をしていました。当社は昭和42年8月に北部まき網業界で初めて九州地区の「網船1隻体制」を採用。同業者も代船を建造する場合は2隻の網船を1隻にするように変わっていききました。

昭和45年6月、水産先進国であるノルウェーに業界の視察旅行が企画されたので参加しました。当時の日本の水産は世界一と聞かされていましたが、現地のまき網漁業を見ましたら、世界一はノルウェーではないかと感じました。1,000トンの満たない800トンの船1隻のみに網を積んで、乗組員もわずか13人で操業し、漁獲物は船上で急速冷凍したり、魚ごとに漁獲量を設定管理したり、日本では到底考えられない状態に大変驚きました。

なぜなら、当時の日本では皆さんもご存じかもしれませんが、「親の仇と魚は見たらとれ」という諺が当たり前でした。このような状態では将来、資源不足になると常々思っていました。当時の複数船操業法式を単船操業に転換することが望まれることから、昭和55年に水産庁が漁業技術開発と同時に単船操業方式、まき網漁業開発検討会を立ち上げました。時代が進み、昭和から平成の時代が変わってから、少しずつ私たちの考え方が認知され、特別枠を設けてくれました。

されど、それぞれの会社で対応するのは問題が多く、業界全体で新しく出資会社を立ち上げ新造船を建造し、その船をチャーターするという仕組みが動き出しました。現在もありますが、北部まき網漁業連合会は青森から岩手、宮城、福島、茨城、千葉県それぞれの県の組合長の理解を頂き、昭和63年に「北勝丸」というまき網船を竣工させました。しかし、実際に操業してみると、ノルウェーのフィヨルドを中心とする漁業とわれわれが操業する太平洋では海域に大きな違いがあり、なかなか成功に結び付くには程遠く、失敗を繰り返しながら試行錯誤しました。探索船を

兼ねた運搬船と2隻体制にすることで、3年以上経ってからようやく成功することができました。

漁業視察のため平成元年8月に当時水産庁のまき網担当者の若手を含む10名のメンバーでノルウェーを訪問し、いろいろと勉強させてもらいました。その時参加した水産庁の成子隆英さんはその後、北部まき網連合会会長、全国まき網漁業協会会長に就任しています。帰国してから若手業者仲間と「まき網21世紀の会」を立ち上げました。平成13年秋に水産庁が七つの魚種の漁獲量を設定しました。われわれがメインとしているマサバについては資源管理を設定し、資源回復計画を策定して、年間の国内における総漁獲量を決めました。その効果が表れ始めたのが4年後くらいでした。漁獲量の減少や魚価の低迷で経営基盤が揺らぐ大中型まき網漁船の前途に光明を見出すことができず、今後の事業展開が注目された水産資源の減少や国際的な規制強化の中で、漁船漁業は漁獲量を重視した従来の操業形態から転換を迫られておりました。「北勝丸」の成功を参考にし、個人事業者でも試験的にミニ船団方式を取り入れることができないか、国に申し込みました。ちょうどその時、平成14年秋に小泉内閣の誕生で農林水産大臣に就任したのが地元の大島理森先生で、国が漁船をリースしてくれる方法を検討するようお願いしました。新造する船内には最新鋭の冷凍設備を搭載し、船内凍結した漁獲物をECに輸出できるハサップ対応を取り入れることを目指したものでした。

国の認定を受け平成16年春に建造に取りかかりました。この船が平成17年3月に完成し「第八十八惣寶丸」という船名をつけました。親父がまだ元気であり、ちょうど88歳を迎えることを記念してその番号をつけました。操業してからは大漁にも恵まれ、ミニ船団の効果も表れ、立派な成績を上げることができました。国が平成19年度から実施した「漁船漁業構造改革推進事業」に当社が名乗りを上げ、全国で第1番目の認定をもらい、早速建造にとりかかりました。国が改造漁船を3年間

チャーターするという支援事業で、4隻体制から2隻体制へ縮小しミニ船団方式に転換、水産資源に配慮しながら経営改善を図ることを目指したものでした。

平成21年6月、全国まき網漁業協会の主催でノルウェーへの先進地視察が企画されました。団長は全国まき網漁業協会会長で前衆議院議員の相澤英之先生。私は北海道まき網漁業協会の副会長という立場で同行させていただきました。当時の会長の大野馨さんは演歌歌手の北島三郎さんの実の弟で、北海道庁の水産部長を退任されて会長に就任しました。兄弟ですから当然ですが、顔だちもよく似ていて演歌も得意。歌を歌うと北島三郎よりうまいのでは、というくらいの方でした。

帰国してから全国の船主にミニ船団方式をもうかる漁業、頑張る漁業と名付けて取り組んでもらえるように奨励し、網船や運搬船の建造が進みました。当時、船の建造価格は高騰していましたが、国の支援を受けて建造資金を借り入れ、その後完成した船舶を国が3年間チャーターする方式。漁船漁業構造改革推進事業が既に決定していましたので、不況に陥っていた造船業界や関連の機器メーカーに活力を与えることができました。この方式を取り入れる船主が全国に広がり、まき網のみならず全てのイカ釣り船、底引き船、カツオマグロ船等にこの資金が使われるようになりました。2020年末で調べてみましたら、まき網本船・運搬船で合計50隻をはじめ、マグロ底引き、イカ釣りなど300隻くらいがこの資金を利用していました。

昭和41年に当社として初めてまき網漁業に着手し、49年までの間に3ヶ統経営するに至っていましたが、その間、北部まき網海区

のみならず、その他の海区、例えば北海道を操業する漁業権、北部太平洋海区を操業する漁業権を45年に購入したのを皮切りに、52年には中部太平洋海区、57年に西部日本海海区、中部日本海海区、平成19年に北部日本海海区の許可を買い入れし、どんどん操業海域を拡大していきました。

底引きの会社がまき網に漁業内容を変更せざるを得なかったのは、昭和52年の国連海洋法会議で、北洋海域で操業する日本の船が締め出しを食らったためです。かつて北洋で動いていた大型の底引き船が152船あったのですが、今は八戸のたった2隻だけです。日本近海で操業できる漁業権を持っていたら商売がある程度長くやれるのではないかと考えていましたが、特に近海の操業が盛んになってから大型船は締め出しを食らっています。いくら漁業権があっても悠々自適に操業ができるというわけではありません。静岡の駿河湾は小型船の主漁場で、大型の船は一切入れない。操業の期間も制限されており、北海道の漁業権は7月1日解禁で4カ月間限定です。けれども、150数隻あった底引き船が2隻しか残らなかったことを考えると、まき網はまだよかったのかなと思っています。

現在、当社はまき網船が3カ統、そのほか中型底引き船が1隻動いています。まき網は国の手厚い支援のおかげで利益を上げることができています。八戸市が市制88周年を迎えた時、小林市長に相談し、8を最後まで並べた数字で市に恩返しをしたいということで8,888,888円を寄付させていただきました。公益財団法人漁船海難遺児育英会にもそれなりの恩返しをさせていただいています。

出席報告					寄付報告	
出席委員会					国際奉仕委員会	
第3184回例会（4月14日）			第3182回例会（3月31日）			4月14日現在
出席率 67.8%			出席率 74.6%		修正出席率 76.3%	財団寄付額 ￥390,300
総会員数 60名		出席数 40名	総会員数 60名		メークアップした人数 1名	目標達成率 33.6%
出席義務会員 59名	出席免除会員 1名	欠席数 19名	出席義務会員 59名	出席免除会員 1名	欠席数 14名	寄付者数 21/62名
						米山寄付額 ￥280,800
						目標達成率 45.3%
						寄付者数 20/62名